

1. 評価報告概要表

外部評価の結果

講 評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

- ・ 当ホームは商店街も近く地域に根ざした地域密着型グループホームとして庶民的で入居者の気持ちに沿った運営を心がけている施設である。
- ・ 1ユニット6人の利用者は、開設当時から同じメンバーであり、このことが家庭的な雰囲気施設の作りあげること寄与している。
- ・ 体調の良い入居者は食事の材料の買い物に一緒に行ったり、食事づくりを手伝ったり、洗濯物をたたんだりしている。そうすることによって、入居者は「家事に参加している」と思っている様子は好ましかった。入居者がこうした役割を持つことで、共に支えあって暮らしていくという自信を取り戻し、更なる力を発揮することにも繋がっていくことを期待する。

特に改善の余地があると思われる点

- 業務日誌の記録は記入欄が狭く必ずしも誰が見てもすぐわかるような書き方にはなっていない。
様式を工夫して書きやすく、見やすくすることが望ましい。
 - スタッフ会議の会議録、運営推進会議の会議録はあるが記載が少ない。
会議の内容は過不足なく正確に記録をとっていただきたい。
 - 入居者のホームでの様子を家族に知らせる工夫。
月に1回程度、例えば「グループホームしおかぜの便り」を作って施設の状況を家族に知らせ、家族と施設の交流を積極的にはかることが望ましい。
- 職員研修の実行
- 介護技術・法令・世の中の情勢は日々刻々変化している。その変化に対応するため職員の研修は必要不可欠と思われる。職員の質の向上は入居者の利益のみでなく、事業所の質の向上に繋がることは当然のことと考える。運営規定に謳われている研修は最低限であり、それ以上の研鑽を図って更なる福祉介護サービスの質の向上を期待する。
- 入居者の高齢化に対する体制。
- 入居者はますます高齢化する。そのことを見据えた体制の準備を図っていかれることを望む。

2. 評価報告書(判断理由・根拠)

No	外部評価項目	できている	要改善	評価不能
	運営理念 1 運営理念の明確化			
1	理念の具体化 事業所が、認知症高齢者グループホームとしての入所条件を、なるべく地域に住んでいる人としていることは、地域密着型施設として適切であると思料する。 「理念」は掲げられてはいるが、内容を端的にまとめ、字を大きく、額の高さなど工夫をすることによって、家族・来訪者がより一層見やすいものとするのが望ましい。			
	運営理念 1項目中 計	0	1	0

	生活空間づくり 1 家庭的な生活空間づくり			
2	気軽に入れる玄関まわり等の配置 グループホームは3階建てビルの2階部分にあり、エレベーターを降りてすぐの玄関はバリアフリーになっていて出入りが容易である。			
3	家庭的な共用空間づくり 普通の家庭の居間と思われるほど格式ばらず、くつろいで時間が過ごせるようになっている。			
4	共用空間における居場所の確保 リビング・ダイニング6人の入居者で左程狭さは感じない。各自思い思いの場所でくつろいでいる。			
5	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 各自の好みに応じた居室となっている。自分の好きなもの・思い出のものを持ち込んで心安らく部屋になっている。			
	家庭的な生活空間づくり 4項目中 計	4	0	0
	2 心身の状態にあわせた生活空間づくり			
6	身体機能の低下を補う配慮 居室・トイレ・お風呂の段差はない。廊下はすべて手すりがついている。トイレは居室には無いが、このことが入居者の運動量の確保に利している。特に不都合も起きていないとみられる。			
7	場所間違い等の防止策 居室には表札が掛っている。場所間違いは起っていないとのことである。			
8	音の大きさや光の強さに対する配慮 各居室・共用スペースは自然光が入り明るい。			

No	外部評価項目	できている	要改善	評価不能
9	時の見当識への配慮 時計・カレンダー・日めくり等を配している。又入居者が日を移動する手作りカレンダーも有った。			
10	活動意欲を触発する物品の用意 家族からの手紙や写真を張っている入居者もいる、各自の趣味に合わせている。			
	心身の状態にあわせた生活空間づくり 5項目中 計	5	0	0

ケアサービス				
1 ケアプラン				
11	個別具体的な介護計画 介護計画は3ヶ月に1回の見直しをしている。入居者の生活歴を理解して介護計画に生かしている。日常会話の時も職員が共通の理解の下に接している。			
12	介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画は、状態に特別の変化が無い場合、年に2回の家族会で知らせている。家族には確認署名を貰っている。家族参加で介護計画の見直ししている入居者もいるが、そうでない入居者には、見直し時点からの家族参加を試みて欲しい。			
13	介護計画の見直し 介護計画期間終了前であっても、入居者の状態に合わせて見直しの修正は随時行っている。			
14	確実な申し送り・情報伝達 申し送りは記録に残し確実にやっているが、手書きで書き込み欄も少なく読みにくい。誰が見てもすぐわかるように日誌の様式の工夫が望まれる。			
15	チームケアのための会議 会議は毎月1回スタッフ会議を開いて記録も残している。運営推進会議(2ヶ月に1回)に会議録を出しているが記述が不十分である。詳しい記録が望まれる。			
	ケアプラン 5項目中 計	3	2	0
2 ホーム内でのくらしの支援 (1)介護の基本の実行				
16	入居者一人ひとりの尊重 職員は入居者に暖かく寄り添って優しく対応をしている。 職員が入居者の過去の体験を理解し、入居者に接しているように見受けられた。			
17	コミュニケーションに対する取組み 高齢になっての聴力の減退に伴い大きい声を出すと怒られていると思う入居者もいるので時には筆談を交えることもある。			
18	入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居時、本人から・家族から元気なときの生活歴、趣味などを聞いて記録し、職員全員同じ認識でその人らしい生活が出来るように支援している。			

No	外部評価項目	できている	要改善	評価不能
19	入居者のペースの尊重 朝の起床、食事の時間も入居者のペースを損ねることなく対応している。			
20	入居者の自己決定や希望の表出への支援 起床時間、着替えの服は自分で選んでもらっている。全介助の入居者もいるが、他の入居者は各自の残存能力を活用して、出来ない所のみ支援している。			
21	一人でできることへの配慮 出来ることは出来るだけ自分で、をモットーに見守りをしている。			
22	鍵をかけないなど身体拘束(行動制限)しない工夫 身体拘束については入居時に入居者、家族にしないことを説明している。身体拘束をした例はない。徘徊時には、常に見守ることにより安全を確保している。			
	介護の基本の実行 7項目中 計	7	0	0
	(2)介護の基本の実行 食事			
23	食事を楽しむことのできる支援 食事の献立は毎日入居者と相談して決め、買い物と一緒にいき、食事の準備を手伝える人と職員で作っている。毎日相談して作るのではなく、1週間分くらいを相談して決めていくように出来ないものか、考える余地は有りそうである。			
24	食事作り 毎日の食事作りは、出来る入居者には得意なことを分担して手伝ってもらっている。			
25	個別の食事状況の把握 入居者の食事の摂取量、水分の摂取量を大まかに把握し、記録に残している。水分の補給は医師の指導により注意する必要がある入居者には特に気をつけている。			
	排泄			
26	排泄パターンに応じた個別の排泄支援 オムツは出来るだけ使用しない。夜のみ本人の希望も入れてオムツを使用している入居者はいるが日中オムツは使用していない。			
27	排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・確認、はさりげなくしている。			
	入浴と整容			
28	入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴 入浴は入りたいときにいつでも入る体制をとっているし、入居者は入りたい時いつでも入っている。機械浴でないと入れない入居者がいる(1人) その人には1階のデイケアで入浴をしてもらっている。			
29	プライドを大切にした整容の支援 入居者の皆さんはさっぱり清潔な感じであった。整髪・美容は近所の商店街のお店に行っている。			

No	外部評価項目	できている	要改善	評価不能
	睡眠・休息			
30	安眠の支援 大方の入居者は一人ひとりの睡眠のパターンで生活している。夜眠れない入居者には夜勤勤務者が支援している。			
	介護の基本の実行 8項目中 計	7	1	0
	(3)生活支援			
31	ホーム内の役割・楽しみごとの支援 体調の良い入居者は1階のデイケアセンターでお友達と団欒している。お誕生会もしている。エレクトーンも時々弾いていた入居者も今はもう弾かない。			
	生活支援 1項目中 計	1	0	0
	(4)健康管理			
32	医療の相談の確保 24時間体制で来てもらえる医院と契約している。歯科は年1回検診を受けている。			
33	口腔内の清潔保持 食後は声をかけて、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等)			
34	服薬の支援 入居者が使用する薬の容量・用法を把握している。食事の時、飲み忘れの無い様に職員全員が支援している。また症状の変化は直ぐ医院に連絡をして指示を仰いでいる。			
	健康管理 3項目中 計	3	0	0
	3 入居者の地域での生活の支援			
35	ホームに閉じこもらない支援 希望により近所のお店に食料品の買い物に職員と行く。家族の支援も受けお花見にも出かけた。体調のいい時は屋上に職員と洗濯物を干しに行くこともある。			
36	周辺施設等の理解・協力への働きかけ 地域との関係はまだあまり出来ていないが、運営母体の港医療生協のしおかぜ祭り(春、夏年2回)には参加している。児童福祉施設海の子学園との交流をしたこれからも続けたい。運営推進会議を2ヶ月に1回開いて地域との交流を図りつつある。近くの入居者が多いので近所の理解もある。			
	入居者の地域での生活の支援 2項目中 計	2	0	0
	4 入居者と家族との交流支援			
37	家族の訪問支援 家族が気軽に訪問できるように時間の制限などはしていない。苦情相談シートも用意しているが特に利用はない。			
	入居者と家族との交流支援 1項目中 計	1	0	0

No	外部評価項目	できている	要改善	評価不能
	運営体制			
	1 ホームと家族との交流			
38	家族の意見や要望を引き出す働きかけ 経営母体の港医療生活協同組合の便りを送っている。その中にグループホームの内容を知らせる特別な欄はない。この便り以外にグループホームしかぜのお便りも出してない。港医療生協の便りにグループホームのお知らせ欄を作るか、グループホームしかぜ独自の便りを作るか、家族に入居者の様子・ホームの様子を知らせて家族にホームとのかかわりを深めてもらう努力をして欲しい。			
39	入居者の金銭管理 自らお金の管理が出来・管理することを望む人、家族がすべて管理している人、小額を事業所が管理し報告を家族にする人、入居者にあわせて対応している。			
	ホームと家族との交流 2項目中 計	1	1	0
	2 職員の育成			
40	継続的な研修の受講 社内研修は採用時1ヶ月研修、継続研修年1回、と運営規定に謳われているが研修に行ったことが記録上からも、職員の話でも伺えなかった。より良いグループホームの運営は、事業経営者の理念と職員の資質と意欲にかかっている。研修から得られる介護スキル向上は、入居者のためはもとより職員の意欲に繋がります。そのことから職員研修は必要不可欠と思われます。			
	職員の育成 1項目中 計	0	1	0

評価合計

外部評価項目		できている	要改善	評価不能
運営理念	1項目中	0	1	0
生活空間づくり	9項目中	9	0	0
ケアサービス	27項目中	24	3	0
運営体制	3項目中	1	2	0
全評価項目合計	全40項目中	34	6	0